

このメッセージの表示に問題がある場合は、[ここ](#) をクリックしてWebブラウザで表示してください。



UpToDateニュース

発行：2024年7月31日



「UpToDate®ニュース」では、お役に立つ情報を日本語でお知らせしています。リレーコラム「UpToDateとわたし」は、日々の臨床や医学教育にEBMを実践されている医療従事者の皆様に原稿を執筆いただいています。ぜひ最後までお読みください！

アカウント再認証はお済みですか？

UpToDateログインIDをご確認ください。アカウント認証は90日で失効しますが、施設内でアカウントにログインすれば復活します。

目次

- EBM実践者のリレーコラム「UpToDateとわたし」
 - 青木眞先生 執筆
- 臨床情報
 - 男性と性交渉を持つ男性およびトランスジェンダー女性のSTIリスクに対する曝露後予防^(*1)
 - Major liver resectionにおける腹腔鏡手術と開腹手術の比較^(*2)

- 2型糖尿病におけるセマグルチド皮下投与と腎疾患進行リスク^(*2)
- UpToDate活用のヒント
 - プライマリーケア（成人）分野の閲覧数上位トピック ランキング
- イベント情報
 - 8月21日（水）「病院薬剤師の医薬品情報リテラシー向上オンラインセミナー【第2回】」開催のお知らせ
 - 「第29回 日本病院総合診療医学会学術総会」ブース出展のお知らせ
 - 定期オンラインセミナー開催のお知らせ
- 読者アンケート

本ニュースレターに含まれるUpToDate掲載トピックは、編集時点の情報です。最新情報は、UpToDateにログインしてご確認ください。専門領域別の「What's New」や「Practice Changing UpDates」を読むには、[こちらをクリック](#)してください。

(*1) 2024年7月31日発行 Current UpDate (Volume 109、Issue 1324) 掲載記事抄訳

(*2) 2024年6月19日発行 Current UpDate (Volume 10、Issue 12) 掲載記事抄訳

本ニュースレターは、UpToDate施設契約のご利用施設に在籍し、アカウント登録を完了しているお客様にお届けしております。以下のリンクからUpToDate臨床トピックにアクセスできない場合は、所属施設の契約管理者様にお問い合わせ下さい。

EBM実践者のリレーコラム「UpToDateとわたし」

EBM、それ以前とこれから

青木真

EBM的価値観との出会い

私が医学部を過ごした1970年代は、どこの医学部の卒業生もほぼ全員が母校の大学病院に残り臨床を始めるのが「普通」だったと思います。そこでは教授や先輩の教えが臨床判断の基軸でした。その基軸は科学のみならずマクロ・ミクロの政治や経済に影響されていました。

そのような中、1979年に青森を飛び出し研修を始めた沖縄県立中部病院で私が見たもの、それはEBMという言葉こそ無かったものの、その臨床判断の基軸はAuthorizeされた論文を用いた「根拠」そのもので、その基本コンセプトは「患者中心」でした。

更に1984年に初の外国人研修医として就職した米州立ケンタッキー大学では有名な医学雑誌の論文でも盲目的に従うのではなく、適切にcritical appraisal評価/査定するという訓練が毎週ありました。そこで紹介されたのが1981年に出版さ

れたRichard K. Riegelmanns著"Studying a Study and Testing a Test" (Lippincott Williams & Wilkins) でした。この本を後に、日本の臨床決断分析の草分け的存在である福井次矢先生にご紹介したり、彼が日野原重明先生と監訳されたMilton C. Weinstein 著"Clinical Decision Analysis"(W. B. Saunders Company) (邦題「臨床決断分析－医療における意思決定理論－」医師薬出版株式会社) の翻訳をお手伝いしたのは懐かしい思い出です。

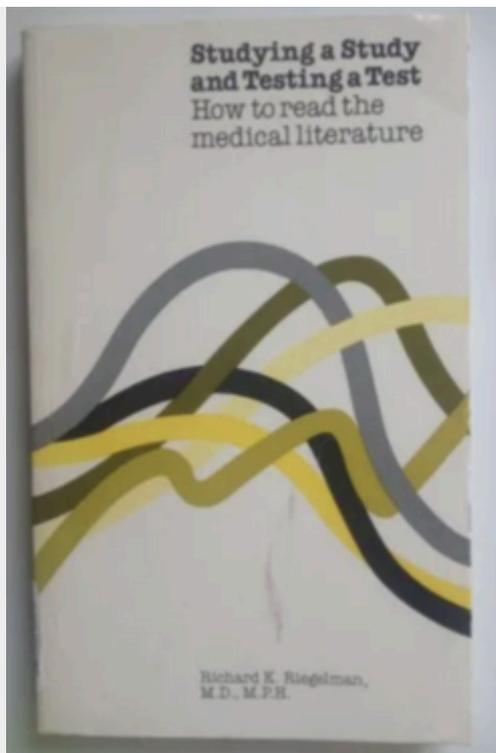
EBMのこれから

2回にわたる渡米にあたり最低でも数個の段ボールに詰め込まれた論文が私と一緒に太平洋を往復しました。なぜならそれ「だけ」が私がすぐにアクセスできるエビデンスだったからです。優れた論文もその論文が掲載されているJournalを見過ごせば、その存在さえ知るよしもありませんでした。ですから日々主なJournalに目を通さないというOptionは我々になかったのです。UpToDateのように瞬時に優れたエビデンスが整理された2次資料として入手できる今日の世代には想像できないと思います。とても「便利」になりました。後はこの「便利さ」の持つ副作用に意識的であることが求められるかもしれません。即ち、「便利」さに付帯しがちな「価値」の誤用、ひよんな事情でアクセスしそこなった人、十分にエビデンスを吟味する教育を受けなかった世代に対する不十分な「敬意」、などです。

「のぞみ」で東京・新大阪間は2時間半程度ですが、江戸時代、一般の人が江戸から大阪まで旅をするのにかかる時間は、通常約2週間から3週間ほどでした。これを理由に現代人が江戸時代の人を馬鹿にすることはありえないでしょう。我々は「のぞみ」を創造したのではなく、「たまたまその便利さを享受できる時代に生きているだけ」という謙虚さがUpToDateに接点の無い世界に対するアクセスを良いものとするかもしれません。

次号執筆者のご紹介

板橋中央総合病院は数年以内に都内有数の基幹病院となると思います。それは加藤良太郎先生が院長として采配をふっておられるからです。彼は東京大学の医学部を卒業後、米国で臨床の訓練を受けつつ同時に弁護士資格まで取得するというEliteですが、これからの日本の地域医療を交通網に例えると、必要なのは1台のフェラーリではなくて、100台のマイクロバスであると俯瞰できるバランス感覚をお持ちです。優れた臨床医ですからUpToDateのFrequent Flyerであるに違いない彼のEssayが今から楽しみです。



(写真左) Studying a Study & Testing a Test | (写真右) ケンタッキー大学にて

臨床情報

男性と性交渉を持つ男性およびトランスジェンダー女性のSTIリスクに対する曝露後予防

【Practice Changing Update】 性感染症 (STI) のリスクが高い、男性と性交渉を持つ男性 (MSM) およびトランスジェンダー女性において、ドキシサイクリンによる曝露後予防 (PEP) (コンドームなし性交から72時間以内に200 mgを服用) が梅毒、クラミジア、淋病の発生率を低下させることが、いくつかの無作為化試験で示されています。2024年6月、米国の疾病管理予防センターは、臨床医がこのような対象者に向けて、ドキシサイクリンPEPの利点とリスクについてカウンセリングを行い、その提供の可否を決定する際に意思決定を共有することを推奨しました。我々は、消化器系への副作用の可能性と、抗微生物薬耐性に対する不確定長期間の影響を認識した上で、この集団に対するドキシサイクリンPEPを推奨します。PEPを使用するかどうかにかかわらず、我々は他のSTI予防戦略も引き続き重視します。

男性と性交渉を持つ男性およびトランスジェンダー女性において、過去12か月間に細菌性性感染症 (STI) の既往歴がある場合、または計画的な性行為によりSTIへの曝露が増加する場合 (例えば、複数の性交渉相手や匿名の性交渉相手との性行為) には、クラミジア、淋病、梅毒のリスクを低減するためにドキシサイクリンによる曝露後予防を推奨します [\(グレード 2B\)](#)。

詳しくは「[Prevention of sexually transmitted infections](#)」（[性感染症の予防](#)）内のセクション「[Doxycycline post-exposure prophylaxis for selected individuals](#)」（[特定の対象者に対するドキシサイクリンによる曝露後予防](#)）をご覧ください。

Major liver resectionにおける腹腔鏡手術と開腹手術の比較

Minor hepatectomyに関しては、低侵襲手技は開腹手術と同等、あるいはより優れています。Major hepatic resectionに関するデータは限られています。ORANGE II PLUS無作為化試験では、Major liver resection（半肝切除）を受けた患者332人を対象に、開腹手術と腹腔鏡下切除の転帰を比較しました。腹腔鏡下切除により、機能回復までの期間が短縮され（4日対5日）、QOLスコアが向上し、またがん患者では、がんの転帰に悪影響を及ぼすことなく、補助的全身療法までの期間が短縮されました（47日対63日）。これらの知見は、経験豊富な施設における、あらゆる種類の肝切除への低侵襲手技の使用を支持するものです。

詳しくは「[Minimally invasive liver resection \(MILR\)](#)」（[低侵襲肝切除術 \(MILR\)](#)）内のセクション「[Perioperative outcomes](#)」（[周術期の転帰](#)）をご覧ください。

2型糖尿病におけるセマグルチド皮下投与と腎疾患進行リスク

2型糖尿病（平均年齢：67歳、平均A1C：7.8%）および慢性腎臓病（CKD；平均推定糸球体濾過量[eGFR]：47mL/分/1.73m²、尿中アルブミン/クレアチニン比中央値：567mg/g）の成人3500人以上を対象に、セマグルチド皮下投与（週1回 1mg）をプラセボと比較評価した試験において、セマグルチドは主要な腎イベント（腎不全の発症、ベースラインからのeGFRの50%以上の低下、腎臓または心血管関連の死亡の複合）の発生率を減少させました。特にベースラインからのeGFRの低下と心血管死亡率においてベネフィットが認められました。これらの知見は、2型糖尿病およびCKD患者において、特に血糖値および/または体重の大幅な減少が治療の主要な目標である場合のセマグルチドの使用をさらに支持するものです。

詳しくは「[Management of persistent hyperglycemia in type 2 diabetes mellitus](#)」（[2型糖尿病における持続性高血糖のマネージメント](#)）内のセクション「[Our approach](#)」（[我々のアプローチ](#)）ならびに「[Glucagon-like peptide 1-based therapies for the treatment of type 2 diabetes mellitus](#)」（[2型糖尿病の治療に対するグルカゴン様ペプチド-1療法](#)）内のセクション「[Microvascular outcomes](#)」（[微小血管転帰](#)）をご覧ください。

UpToDate活用のヒント

プライマリーケア（成人）分野の閲覧数上位トピックランキング

UpToDateでは、現在25領域、12,800以上のトピックを掲載しています。今回は2023年7月以降の1年間で日本からのアクセスが最も多かった、プライマリーケア（成人）分野のトピック上位5タイトルをご紹介します。

順位	タイトル
1	診療変更に関する最新情報
2	成人と小児における連鎖球菌性咽頭炎の治療および予防
3	伝染性単核症
4	新型コロナウイルス感染症：外来での急性疾患成人の管理
5	成人の免疫正常宿主におけるサイトメガロウイルス感染の疫学、臨床症状、および治療

出典：2023年7月から2024年6月までの日本の利用者のアクセス状況より。

イベント情報

8月21日（水）「病院薬剤師の医薬品情報リテラシー向上オンラインセミナー【第2回】」開催のお知らせ

病院薬剤師の医薬品情報（DI）リテラシー向上をテーマに、病院薬剤師や医薬品情報業務の在り方、役立つ医薬品情報の効率的な入手・提供方法などについて考えるオンラインセミナーを開催します。第2回となる次回は、萱野 勇一郎先生をお招きして、「医療DX時代の地域薬物治療連携の未来を探る～楽しみながらUpToDateを活用してみる」という演題でご講演いただきます。

- ・ 開催日時：2024年8月21日（水）18:00～19:00
- ・ テーマ：医療DX時代の地域薬物治療連携の未来を探る～楽しみながらUpToDateを活用してみる～
- ・ 対象：DI業務を担う薬剤師、ハイリスク薬を扱う医師・薬剤師、病棟薬剤師、メディカルスタッフ
- ・ 座長：三浦 誠 先生（医療法人社団洛和会 洛和会音羽病院 薬剤部 部長）
- ・ 演者：萱野 勇一郎 先生（大阪府済生会中津病院 薬剤部長）
牧野 隆朝（ウォルターズ・クルワー アカウントマネージャー）
- ・ 詳細・お申し込みは [こちら](#)

「第29回 日本病院総合診療医学会学術総会」ブース出展のお知らせ

2024年9月7日(土)～8日(日)に開催される「第29回 日本病院総合診療医学会学術総会」にブース出展します。

臨床意思決定支援リソースUpToDateや医薬品情報リソースUpToDateおよびUpToDate Lexidrug (旧称Lexicomp) を活用して、最新のエビデンス情報を効率よく入手し的確な臨床判断を行う方法について、デモンストレーションで紹介します。

UpToDateの利用方法に関するご質問も可能です。また、弊社ブースに立ち寄られたお客様には素敵な記念品[※]を差し上げます。

どうぞお気軽にお立ち寄り下さい。

- 会期：2024年9月7日(土)～8日(日)
- 会場：有明セントラルタワー ホール&カンファレンス
- 学会ホームページ：[こちらのページ](#)をご覧ください

※数量に限りがございます

定期オンラインセミナー開催のご案内

臨床・投薬意思決定におけるさらなるEBM実践を支援するため、UpToDateおよびUpToDate Lexidrugの活用方法に関する無料のオンラインセミナーを定期開催してまいります。開催告知メールを現在受信しておらず、今後ご希望の方は、[こちらのフォーム](#)よりご登録をお願いします。毎月1回程度、Eメールでご案内いたします。皆様お誘いあわせのうえ、ぜひご参加ください。

登録受付中

- 9月19日（火） 5:30pm～6:10pm UpToDate徹底活用セミナー [お申し込み・詳細](#)

開催予定（受付準備中）

- 10月24日（火） 4:30pm～5:10pm 「対話型クリニカル・パス」および「臨床検査ガイドライン」の徹底活用
- 11月12日（火） 6:00pm～7:00pm 病院薬剤師の医薬品情報リテラシー向上オンラインセミナー【第3回】
- 12月13日（水） 4:30pm～5:00pm 30分でわかる！UpToDate入門オンラインセミナー

※「UpToDate徹底活用セミナー」の内容は、「UpToDate入門オンラインセミナー」と一部重複しますが、より踏み込んだ解説や未紹介のコンテンツ・機能の紹介を行いますので、同講座を受講済みでもお楽しみいただけます。

※上記開催日時は予告なく変更になる場合がございます。

※参加登録ページで開催日時が海外のタイムゾーンで表示された場合は、「東京時間」をご選択ください。

製品サポート情報

ご自身のUpToDateアカウントの登録内容（Role/Specialty）のご確認のお願い

ご登録いただいているUpToDateアカウントのRole/Specialty項目を、ご自身で変更いただくことが可能になりました。UpToDateアカウントをご登録された頃から年月が経ち、現在と状況が変わられている方も多いかと存じます。ぜひ、この機会に登録内容をご確認いただき、現状にあわせて更新していただければ幸いです。新たに「勤務部門」の項目が追加になりましたので、あわせてご登録をお願いいたします。

詳しい手順については、次のリンクから資料をダウンロードしてご確認ください。

ダウンロードリンク：[こちら](#)（2024年12月31日までダウンロードが可能です）

読者アンケート

読者アンケートにご協力をお願いします

UpToDateニュースをお読みいただきありがとうございます。今後お読みになりたいコンテンツのご希望について、アンケートにご協力をお願いします。回答をお寄せいただいた方の中から、先着10名の方にウォルターズ・クルワー特製記念品をお贈りさせていただきます。なお、当選者の発表は、発送をもってかえさせていただきます。

[こちら](#)よりアンケート回答フォームにお進みください。

このお知らせはお役に立ちましたか？



[Privacy Policy](#) | [Unsubscribe](#) | [Manage Email Preferences](#)

Follow Wolters Kluwer

Wolters Kluwer
230 Third Avenue Waltham MA 02451



You received this message because you are a user of an UpToDate® or Medi-Span® solution.

[UpToDate®](#) | [UpToDate® Lexidrug](#) | [UpToDate® Patient and Member Engagement](#) | [UpToDate® Digital Architect](#) | [Medi-Span®](#)

© 2024 Wolters Kluwer and its affiliates and/or licensors. All rights reserved.

